

日本語教育能力検定試験
本試験形式

模擬問題集
2022 年度版



はじめに

本書は、通信講座「篠研の日本語教育能力検定試験対策」の【道場破り！一模擬問題】に、若干の加筆修正を加えてまとめたもので、日本語教育能力検定試験（以下、検定試験。）全出題範囲を網羅した講義資料を基にした問題集です。本試験と同じ形式の問題を解くことによって、検定試験合格の実量を養成いたします。

ぜひ、本書を最大限活用し、検定試験の合格切符を手にしてください！！

著作権について

本書は著作権法で保護されている著作物であり、著作権は篠崎大司に属します。

著作権者の許可なく、本書の全部又は一部を紙媒体をはじめ電子媒体（インターネット）などいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った場合やその他不正行為に該当する行為を行った場合は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。

No.001 言語の種類

問題1 次の文章を読み、下の問いに答えよ。

初期の種類論における代表的な学者にシュレーゲルと〔(ア)〕がいる。

シュレーゲルは、言語を形態上の違いから接辞型、屈折型、無変化型の3種に分類した。

さらに、〔(ア)〕は、言語を(A)孤立語、膠着語、屈折語、抱合語の4種に分類した。

孤立語とは、語彙が文中で変形することなく、それぞれが独立して並ぶことによって文を形成する言語のことをいう。

膠着語とは、自立語の語幹に接辞がついたり、自立語同士を(B)付属語がつなげることで文を構成する言語のことをいう。

屈折語とは、語彙が文中で変形することで文中の成分を表す言語のことをいう。

抱合語とは、文を構成する各要素が密接に結合することによって、全体がまるで一語のようになっている言語のことをいう。

ただ、ここで注意すべきは、(C)こうした分類は必ずしも決定的なものではなく、あくまでも「そういう傾向が強い」という観点による緩い分類に過ぎないということである。なお、〔(ア)〕によるこうした分類に基づいた種類論を〔(イ)〕という。

(1) 本文中〔(ア)〕に入る言葉を、次の1～4の中から1つ選べ。

- 1 フンボルト 2 ソシュール 3 サピア 4 ヤコブソン

(2) 本文中(A)に当てはまらない言語を、次の1～4の中から1つ選べ。

- 1 中国語 2 モンゴル語 3 ビルマ語 4 ベトナム語

(3) 本文中(B)について、日本語でこの機能を担っている品詞は何か。

- 1 動詞 2 助動詞 3 名詞 4 助詞

(4) 本文中(C)について、日本語に見られる屈折語的言語現象の例として正しいものはどれか。

- 1 書く-書かない-書きます 2 私-あなた-彼
3 あげる-もらう-くれる 4 白-白む-色白

(5) 本文中〔(イ)〕に入る言葉を、次の1～4の中から1つ選べ。

- 1 共時的種類論 2 古典的種類論
3 革新的種類論 4 形態の種類論